

総合整備計画書

三条市 大平辺地

1. 辺地の概況

- (1) 人口及び世帯数 187人 59世帯
(うち地域の中心を含む5km²以内の面積の区域の人口 187人 59世帯)
- (2) 面積
- | | | | |
|---------------------|---|-----|----------------------|
| 2.4 km ² | { | 宅地 | 0.10 km ² |
| | | 農地 | 1.09 km ² |
| | | 山林 | 1.08 km ² |
| | | その他 | 0.13 km ² |
- (3) 辺地を構成する町又は字の名称 三条市 駒込上・広手・大平
- (4) 地域の中心の位置 三条市大平910番地9
- (5) 辺地度点数 107点

2. 公共的施設の整備を必要とする事情

(1) 辺地の地勢及び住民の日常生活の現況

当辺地地域は市の南東部に位置し、100～150m前後の山に囲まれた標高70mの盆地である。市の中心から約16kmにあり、地域の中央を1級河川大平川が貫流している。区域の左右を国道と県道が走っており、それを結ぶ形で幹線市道が横断している。これらの道路沿いに集落が点在し、大平川の両岸に農耕地が開けている。

気象条件は日本海気候に属し、冷涼・多雨地帯であるが、夏期には30℃を上回る日もあり、又冬期には積雪量が1.5m～2.0m以上となり、積雪期間も100日～110日にも及ぶ典型的な豪雪地帯である。

主産業は農林業であり、経営規模も農地150a、山林618aと零細経営のため産業別所得をみても第2次、第3次産業への依存が顕著となっている。

交通は、国道及び幹線市道は整備済みであるが、県道下田見附線の早期整備が望まれている。

生活環境は、豊かな水と緑に囲まれた風光明媚な土地であるが、冬期間は一転して厳しい自然との闘いとなる。稲作が主産業であるが規模は零細であり、8割以上の世帯が第2種兼業農家で、市内へ就労の場を求めているが、当地域を運行する定期バスは1日1.5往復しかないため自家用車により30分～1時間近くをかけて通勤している。

(2) 公共的施設の整備についての基本方針

各集落の集会所以外に公共施設はなく、このほかは市の中心地にある各種施設の利用を図っている。

山間へき地の豪雪地帯であり、集落が点在していることから、冬期間の防雪・防災体制の整備が重要課題となっている。また、通勤・通学の足を確保するため、県道下田見附線の早期整備が望まれている。

(3) 各区分の施設整備についての方針

ア. 交通・通信体系の整備

地域住民の冬期間の緊急時における自動車運行路の確保を図り、住民生活の安定を図る。

イ. 教育文化施設の整備

本辺地に隣接する集落にあった駒込分校は辺地外の本校との統合により廃校となった。この統合により遠距離通学児童に対処するためスクールバスを導入している。

ウ. 生活環境施設等厚生施設の整備及び医療の確保

上水道施設については整備済みである。また、下水道施設については一部の地区で整備されている。

消防施設については整備済みであるが、順次更新が必要である。

医療の確保については道路整備の推進及び冬期除雪体制の充実により、市内の医療機関への通院を容易にし、住民生活の安定を図る。

その他の施設については老朽化したため池の改修工事を実施することにより、地震等災害に耐えうるものとし、周辺住民の安全を確保する。

エ. 産業の振興

本辺地に隣接する集落の旧分校跡地に建設した労働安全衛生推進施設「森の健康館こだま」を活用した地域行事や軽スポーツ等により健康保持増進に努め、地域の活性化を図る。

オ. 電灯用電気供給施設の整備

施設整備済みである。

3. 公共的施設の整備計画

令和6年度～令和8年度（3か年）

(単位：千円)

番号	施設名	事業主体	事業費 ①	財源内訳			一般財源のうち 辺地対策事業債 の予定額
				特定財源 ②	一般財源 ①-② ③		
1	(反田ため池 (大平地内) 改修事業)	(新潟県)	(550)	(0)	(550)	(500)	
2	(橋梁長寿命 化修繕事業 (大平本村線 1号橋))	(三条市)	(800)	(440)	(360)	(300)	
合計			(1,350)	(440)	(910)	(800)	

※ () は、新たに追加する事業及び変更後の額を表す。